

報道各位

2019年（平成31年）4月24日

株式会社 大広
総務局広報チーム

技術を駆使して「心地よさ」を生み出す「気持センシングラボ」
エイベックスが新たに参画し、6社プロジェクトに
表情解析データの分野を担当

株式会社大広（代表取締役社長：落合 寛司）（以下、大広）は、SOOTH 株式会社（代表取締役：額田 康利）（以下、SOOTH）、株式会社ヒトクセ（CEO：宮崎航）（以下、ヒトクセ）、株式会社ビデオリサーチ（代表取締役社長：加藤 譲）（以下、ビデオリサーチ）、ソネット・メディア・ネットワークス株式会社（社長：石井隆一）（以下、SMN）と進めている共同研究プロジェクト「気持センシングラボ」に、エイベックス株式会社（代表取締役会長 CEO：松浦 勝人）（以下、エイベックス）が参画することが決定しましたのでお知らせいたします。

「気持センシングラボ」は、生活者にとっての心地よいコミュニケーションを創造していくため、テクノロジーを活用して生活者理解を深めることを目的に昨夏発足したプロジェクトです。

今回新たに参画するエイベックスは、独自に開発した人の顔の表情を解析するシステム「来場者分析システム」※1を用いて、表情解析の分野を担当。表情を判別して、人がどのようなコンディションであるかを解析します。本システムでは同時に大人数の解析ができるため、被験者の数を増やしやすく、かつ安価に実現することが可能です。

エイベックスの参画により脳波や視線などのバイタルデータ（生体情報）の分析データと、表情による感情の解析データを掛け合わせることが可能になり、気持センシングラボ内の新たなデータ軸が増えるだけでなく、調査規模やユースケースの拡大も可能となりさらに深い洞察ができるようになることが期待できます。

- 本件に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

株式会社大広 総務局広報チーム 谷本・青島

TEL. 03-6364-8601

「気持センシングラボ」について



【活動内容】

本プロジェクトは第一弾として「動画」領域での研究をスタートさせ、プロジェクト全体のプロデュースを大広が担当。脳波や視線などのバイタルデータのセンシングおよび分析・評価を行う SOOTH、独自保有する生活者セグメント「ひとセグ」を活用した高度な分析を行うビデオリサーチひと研究所、独自のトラッキング技術を活用した動画配信時のユーザー行動分析を行うヒトクセ、ユーザーインサイトの抽出や動画視聴完了による生活者行動の分析・評価を行う SMN と共に取り組んでおります。

「概念検証」の第一フェーズとして、広告主の動画素材を用いて実証実験を行い、今後調査結果レポートを発表予定です。

最適化サイクル



【今後の展望】

今後は対象を動画以外にも拡大し、様々なコミュニケーションを通して「もたらされた体験」が、その後の生活者行動にどのように結びついたかをトラッキングし、分析・評価していきます。

そして発見できた生活者の感情変化に適したコミュニケーション施策を立案できるソリューションを開発するほか、セミナーやワークショップ、ワールドカフェなどへ展開していきたいと考えております。

※1【エイベックス株式会社「来場者分析システム」について】

より満足度の高いライブ・イベントの実現に向けて、マイクロソフトのAIサービス「Microsoft Cognitive Services」を活用してエイベックスが独自開発した、ライブ来場者分析システム。

AIで会場内に設置したカメラで来場者の顔を検知し、ライブの盛り上がりや演奏されている楽曲と、「怒り」「軽蔑」「嫌悪感」「恐怖」「喜び」「中立」「悲しみ」「驚き」の感情との関連性を分析・数値化するものです。

従来、ライブ・イベントの客観的な評価は、定性的な指標によるものでしたが、来場者の反応を数値化することで、定量的な効果測定が難しいエンタテインメントの客観的な評価が可能になり、イベントの質や満足度の向上に繋がります。

<ご参考>

株式会社大広

<https://www.daiko.co.jp>

SOOTH 株式会社

<https://www.sooth.co.jp>

株式会社ヒトクセ

<https://hitokuse.com/>

株式会社ビデオリサーチ

<https://www.videor.co.jp/>

ソネット・メディア・ネットワークス株式会社

<https://www.so-netmedia.jp/>

エイベックス株式会社

<https://avex.com/jp/ja/>